

誰かの不便さ・便利さを、みんなの使いやすさに

かしわ餅^{もち}! 触^{さわ}って分^わかる!



江戸時代のかしわ餅、「こし餡」は葉の表側が、
「味噌餡」は葉の裏側が表になっています。
葉の表裏で目の不自由な人も触って分かります。

江戸時代^{えど じだい}から現代^{げんだい}に
みんな^{みな}の話^{はな}し合^あいで
受け継^{う つ}がれ、進^{しんか}化する工夫^{くふう}



公益財団法人
共用品推進機構
The Accessible Design Foundation of Japan
ADFJ

触って分かる

触って区別
できるから、
間違えなくて
たずかるわ。



飲み物
牛乳は他の紙パック飲料と区別するために、パックの上部に切欠きがついています。またビールでは他の缶ジュースと区別するために、「おさけ」の点字をつけ誤飲を防ぎます。

シャンプー・リンス・ボディソープ

リンスと区別するために、洗髪用シャンプーやボディソープには触って分かるギザギザやたてのラインがついています。

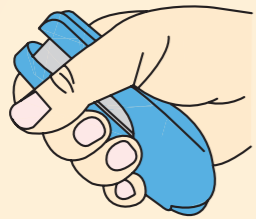


視覚
障害

軽くて使いやすい

ホチキス

従来より軽い力でとじることができる上、手にフィットする形状に改良され、操作が楽になりました。

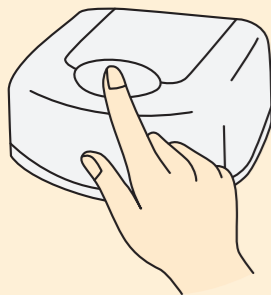


厚い紙の束でも、
カンタンにとじられるから
ラクチンだよ。



子供

片手でも使える



片手で
あけられるので
楽だな。

ウェットティッシュ
フタをあける時に、反対の手で本体をおさえる必要がなく、ワンタッチで楽にあきます。



高齢者

人に合わせる

左右のサイズが選べる靴

左右の足のサイズが違う人に対して、片方ずつ購入できる靴があります。靴の傷み具合によって、右だけ左だけ購入ということもできます。



みんなで話し合って生まれた 使いやすさの一例を紹介します。

このパンフレットを手にしたら
街や駅、家の中のあちこちを探してみてください。
すでに知っている「使いやすさ」が、
きっとたくさん見つかるはずです。

「みんなの話し合い」で 「みんなの使いやすい」が 生まれています。

誰もが使いやすいものは何かを話し合う「みんなの話し合い」。
そこでは、さまざまな立場の人々が意見や知恵を出し合い、
モノづくりのためのルールを考え、みんなが使いやすいものを作り出すために、
話し合いを重ねています。そこから生み出されたものたちが、
障害のあるなし、年齢の高低に関わらず
使いやすい製品・サービス(共用品・共用サービス)となっているのです。



聞いて分かる

声で伝えて
くれるので、
気軽に
使えますよ。

視覚
障害

字幕を表示して
くれるので、
テレビ鑑賞が
楽しくなりました。

聴覚
障害

外国人

乗り物に
安心して乗れて、
うれしいです。

肢体
不自由

駅のホームドア

車椅子マーク(国際シンボルマーク)のついた駅のホームドアに、ゆるやかなスロープを施し、簡易スロープを使用することなく車椅子による乗降を可能にしている場所があります。

見て分かる

テレビの字幕放送

字幕放送で、耳の不自由な人にも放送内容が分かります。またリモコンの表示文字も、より大きくなり、操作が楽になりました。

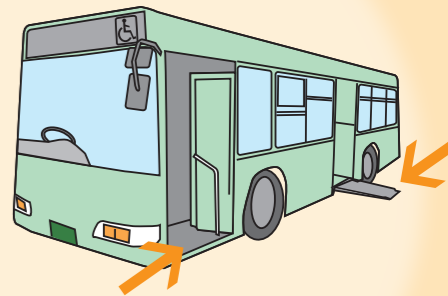
電車内の掲示板

行き先や次の駅等を、日本語はもちろん英語・韓国語・中国語等で表示しているので安心です。

安心して移動できる

ノンステップバス

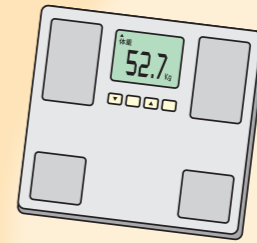
高齢者や足の不自由な人のため、乗降時に車高を下げて歩道との段差を少なくしています。またバスの中ドアからスロープが出てきて車椅子の使用も可能にしています。



52.7キロです

音声体重計

小さな文字で読みづらい計測結果も音声で伝えてくれるので、目の不自由な人にも便利です。

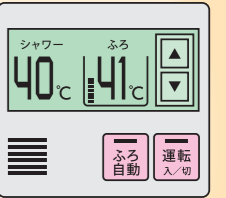


高齢者

最初の設定が
難しそうだったけど、
簡単にできました。

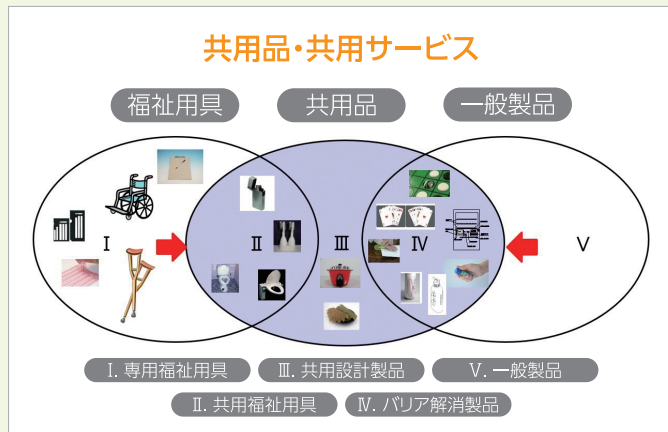
給湯器

操作ボタンを押すと、「給湯を始めます」「お風呂がわきました」等、音声で伝えてくれます。給湯温度の変更も音声で伝えてくれるので、やけど等の事故も防ぎます。



共用品・共用サービスとは

障害のあるなし、年齢の高低、言語の違いなどに関わらず、共に使える製品やサービスのことを「共用品」、「共用サービス」と言います。これらは障害者、高齢者専用の「福祉機器から発展したもの(Ⅱ)」、「一般製品やサービスの不便さを解決したもの(Ⅳ)」、「最初から共用品であるもの(Ⅲ)」の3種類があります。



みんなで話し合うことが大事

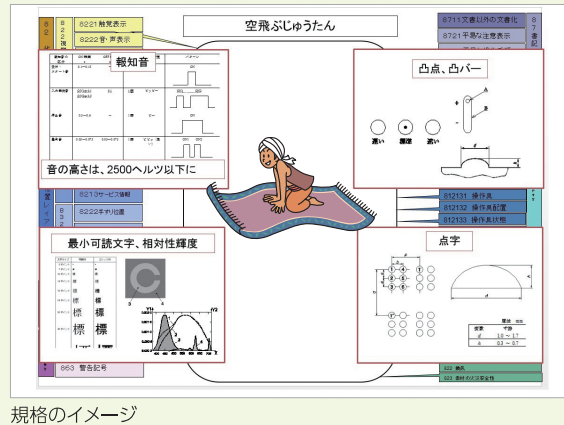
1. 不便さ・便利さ調査の実施

共用品・共用サービスは、さまざまな人の日常生活における不便さや便利さの声から生まれてきました。これらの声をもとに「みんなの話し合い」を行い、不便さを便利さに変えています。



2. 共用品・共用サービスの普及

みんなの話し合いで作った共用品・共用サービスの工夫は日本工業規格(JIS)となり、国際規格(ISO)となって世界中で使われ、多くの人達の不便さを取り除いています。(共用品は英語ではアクセシブルデザインと言います。)



共用品推進機構

誰でも使える製品やサービスの普及を目指している公益財団法人です。常設展示室では、多くの共用品を展示しています。

所在地	〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2階
電話	03-5280-0020
FAX	03-5280-2373
メール	jimukyoku@kyoyohin.org
HP	http://www.kyoyohin.org
共用品ニュース	http://www.kyoyohin-news.org/



常設展示室